

留学生対象懸賞論文 FAQ

当財団へ照会のあった事項等を中心に FAQ を作成しました。

今後も、情報提供を行っていきます。

Q1 表彰式への出席は必須条件でしょうか？

A はい、入賞者は必ず表彰式（2020年1月17日予定）へ出席する必要があります。
（なお、表彰式に出席できない方は入賞対象とはなりません。）

<ご参考>応募資格について

1. 日本国内の大学・大学院に在学し、在留資格が「学生（留学）」である方
2. 国籍：原則として弊財団が研修対象とする国 → FAQ の Q5 参照
3. 表彰式時点で日本の大学・大学院に在学し、表彰式に出席できること

Q2 入賞した場合、どのような手続きが必要になりますか？

A 応募締め切り後の選考を経て入賞候補となった場合には、応募資格確認のため、以下の書類の提出が必要となります。（入賞候補者には11月～12月頃に当財団より直接連絡いたします。）

- ・大学の在学証明書原本
- ・在留カードの両面コピー
- ・二重投稿でない誓約書 など

Q3 応募フォームに、論文執筆時の指導教授やアドバイザーの有無を記入するのはなぜですか？

A 入賞された場合には、表彰式へ入賞者ご本人に加え、入賞者の大学関係者を原則1名ご招待させて頂いております。よって、応募フォームの当該項目に記載のある場合にはその方をご招待、記載のない場合には原則としてゼミ等の指導教授の方、留学生窓口教職員等の学校関係者をご招待させていただくこととなります。

遠方大学よりご出席の場合には、国内往復交通費（航空機・新幹線等）の当財団負担、及び宿泊が必要な場合には当財団にて宿泊先を手配（当財団負担）させて頂きます。

Q4 12月に日本での留学を終えて自国に帰ります。応募可能でしょうか？

A 表彰式開催時点（2020年1月17日）まで日本の大学・大学院に在籍していることが応募条件です。申し訳ございませんが、ご質問のケースですと応募不可となります。

Q5 モンゴル国籍です。財団の応募規定には記載されていませんが応募は可能でしょうか？

A モンゴル国籍の留学生は、応募可能です。当懸賞論文の応募規定には、これまで当財団が主催する研修に参加実績の多い国を中心に例示しています。

当財団は、「開発途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする」事業を活動の柱とし、正しい保険思想の啓発普及を図るとともに保険事業の健全な発展にひろく寄与することを目指しています。このような趣旨から、対象となる国については、制限させていただくことがあります。

同様の質問を下記の国の方々からいただきましたが、応募可能です。

アフガニスタン、エクアドル、エジプト、ガーナ、キリバス、ケニア、コロンビア、サモア、シエラレオネ、チリ、ツバル、ナイジェリア、ネパール、パキスタン、バンラデッシュ、東ティモール、ブラジル、ベナン共和国、ミャンマー、ラオス

判断に迷う場合は、当財団にご照会下さい。

(FALIA 懸賞論文担当：essay@falia.jp)

Q6 表紙、目次、参考文献は字数としてカウントされますか？

A 表紙、目次、参考文献は字数としてカウントされません。

<ご参考>字数制限

日本語論文…4,000 ～12,000 字

英語論文…4,000 ～5,000 単語

Q7 論文に図表やグラフを挿入する場合は字数としてカウントされますか？

A 図表やグラフは字数としてカウントされません。ただし、論文の展開はあくまでも文章を中心とし、図表やグラフは補足的な役割としてご使用下さい。

<ご参考>字数制限

日本語論文…4,000 ～12,000 字

英語論文…4,000 ～5,000 単語

Q8 参考文献や引用はその旨を記載しなければいけませんか？

- A** はい、参考文献や引用は必ず明記して下さい。公刊された論文や書籍ばかりでなく、インターネット上の情報も同様です。当財団では、ご応募いただいた論文はすべて、剽窃チェックソフトにて確認させていただきます。（剽窃等不適切事項発覚の際は、入賞後であっても、賞の取り消しと賞金の返還を求めることがあります。）
- 参考文献や引用の表記方法がわからない場合は、「APA 方式」等の代表的なスタイルを参考にするとよいでしょう。

Q9 論文を書く際に、FALIA 指定のテンプレートはありますか？

- A** ご応募にあたっては、当財団が指定するような論文のテンプレートやフォーマットは特にございませぬ。書式などが分からない場合は、「APA 方式」等の代表的なフォーマットを参考にするとよいでしょう。
- また、論文を提出する前には、日本語で論文を書く場合には日本語を母国語とする人に、英語で論文を書く場合には英語を母国語とする人に、「校正、校閲」してもらうことをお勧めします。その場合、その方を応募フォームのアドバイザー欄に記載下さい。

Q10 グループでの応募は可能でしょうか？

- A** グループでの応募は可能です。ただし、その場合はグループ全員が応募条件を満たし、期日までに全員が応募フォームから応募する必要がありますのでご注意下さい。

Q11 どのようなテーマで論文を書いていいのかわかりません。

- A** 当財団のホームページにて、受賞者等の報告の中で過去三年分の論文タイトルを公開しております。そちらをぜひご参考ください。また論文執筆のヒントもホームページにて公開しております。そちらも併せてご参照ください。

受賞者たちの声

過去入賞者から寄せられた、懸賞論文に参加した事についての感想を一部ご紹介致します。

- 獲得した賞金は自分の研究に必要な高価な専門書を購入するのにとても役に立った。
- 受賞した経験は大学院進学や就職に役立った。
- 懸賞論文に参加したことで、多くの未経験の分野に触れることができた。
- 論文を書くことで、多種多様な問題に取り組みながら、自信を深めることができた。
- 論文執筆する中で、自国の生命保険の重要性を改めて認識することができた。

